



## いざというときに備えて

庄原市赤十字奉仕団救急法講習・3/7

No.6

庄原市ふれあいセンターで、災害救援や庄原市総合防災訓練で実績のある庄原市赤十字奉仕団（寺岡隆行委員長）が、日本赤十字社広島県支部参事の西本登勢さんを講師に迎え、救急法の講習を行い、20人が参加しました。

講習では、人形を使った心臓マッサージやAED（自動体外式除細動器）の操作体験をしたほか、買い物袋（ポリ袋）などを使って腕を固定する方法や、女性用のストッキングを用いてガーゼを固定する方法などを、実演を交えながら学びました。

参加者は「身の回りのものを使用してできる救急法で大変参考になった。いざというときに役立てたい」と話していました。



▲買い物袋（ポリ袋）と段ボールで応急的に腕が固定された

## 民泊で国際交流

留学生冬の高野で民泊・2/25-26

No.8

広島大学の語学留学生が高野町で一泊二日の民泊体験をしました。

到着した中国、インドネシア、フィリピン、オーストラリア、フランスからの留学生7人は、たかの遊☆学☆隊（高野地域農村体験交流協議会）の歓迎を受け、対面式の後、4軒の受け入れ家庭で高野の食材を使った調理や雪かきなどを体験しました。

初めは言葉が通じないことや気温の低さ、積雪に戸惑っていましたが、一緒に過ごすうちに心が通じ、笑顔で受け入れ家庭との交流を楽しんでいました。

留学生は、「語学の勉強にもなったが、それ以上に日本の文化を体験でき、人の温かさにふれることができたのが良かった」と話していました。



▲調理体験をする留学生

## 森林資源の活用が期待される

林道東城中央線開通式・3/15

No.5

東城町戸宇の市道戸宇受原線から東城町川鳥の県道東城西城線までを結ぶ林道東城中央線の開通式が行われました。当日は関係者が集まり祝辞が述べられたほか、テープカットや記念碑の除幕が行われ、開通を祝いました。

林道東城中央線は総延長約6.6キロメートル、2車線の道路で、平成5年度から平成28年度まで、24年間かけて完成しました。林道東城中央線の完成により、約800ヘクタールもの森林資源の活用が期待されます。

参加者は「林業の市場確保に貢献するだけでなく、戸宇・川鳥のアクセスも良くなり、地域福祉の向上にもつながる。開通をうれしく思う」と話していました。



▲関係者により記念碑の除幕が行われた

## みんなでそば打ち

八鳥ふれあいサロン世代間交流・2/21

No.7

西城町の八鳥集会所で、八鳥ふれあいサロンの参加者と美古登小学校4年生6人がそば打ち体験をしました。使用したそば粉は、児童が種まきから収穫までしたソバからできています。児童はサロンの参加者をお手本にして熱心にそばを打ちました。

昼の会食では、地域の女性部の方々が振る舞ったおにぎり、てんぷら、くだもの、漬物とともに出来たてのそばに舌鼓を打ちました。

食後、児童は感謝の気持ちを込めて、自作のカレンダーを贈ったり、リコーダーの演奏を披露してふれあいサロンの参加者と歌ったりし、楽しい交流会となりました。毎年児童は、この行事で打ったそばを特別養護老人ホーム愛善苑に届けています。



▲児童がそば切りに挑戦

## 地域で暮らし続けるために

巡回相談員連絡協議会研修会・2/13

No.2

比和地区ひとり暮らし高齢者等巡回相談員連絡協議会主催の研修会が、比和自治振興センターで開催されました。昨年度に続いて「認知症についての正しい理解」をテーマに、三次神経内科クリニック花の里の伊藤聖院長を講師に迎えての開催になりました。

参加者は、「今住んでいる場所でそのまま暮らし続けていきたいという願いを持つ高齢者が多くいるが、認知症は誰もがなる可能性のあるもの。家族や地域全体で理解を深め、支え合いができる地域がつくっていきけるように、今後もこういった研修会を通して学びたい」と話していました。



▲参加者は「認知症についての正しい理解」について学んだ

## 地域で防災に取り組む

金田地区防災訓練・3/5

No.4

口和町金田地区で、地元住民と消防団員80人で防災訓練が実施され、避難訓練と炊き出し訓練が行われました。当日は春の防火デーに伴って防災意識を高めようと、「梅雨末期の集中豪雨で特別警報発令後、地域に避難勧告が発令された」という想定で行われました。

防災無線で一斉に避難勧告が伝えられた後、参加者は避難経路を確認しながら避難所へ避難しました。避難所では、避難時の情報交換や非常食の展示、自主防災組織の説明や炊き出し訓練が行われました。

金田自治会長の藤山明春さんは「いつ、どのような災害が起きるか分からないので、みんなで災害に備えたい」と話していました。



▲避難訓練の様子

## 庄原市と首都圏をつなぐ

ひろしま里山ウェブ拡大プロジェクト・3/12

No.1

地域貢献に高い意欲を持つ首都圏の若い世代が、現地での体験や交流を通じて、中山間地域の課題解決に向けたプランを作成する「ひろしま里山ウェブ拡大プロジェクト」の庄原チームが市内でプレゼンテーションを行いました。

昨年10月、4人のメンバーは本市を訪れ、地域住民や移住者と交流し、里山の暮らしを体験しました。この体験を通じて「古民家（空家）を活用した、庄原と首都圏の人・モノ・コトを繋ぐ拠点づくり」と題したプランが発表され、会場からは「庄原でさまざまな活動をしている人たちと連携してほしい」「私も協力したい」など、活発な意見が交わされました。



▲庄原チームのメンバー4人がプレゼンテーションを行った

## 日本有数の節分草自生地

節分草自生地公開・2/11-3/12と節分草祭・3/5

No.3

総領町内6カ所で、市の天然記念物「節分草」の自生地が公開されました。期間中は、道の駅リストア・ステーション（光のドーム）をメイン会場に、山野草写真講座や寄せ植え教室などが行われ、里山総領体育館のキッズコーナーには親子連れが訪れ、ダンボール迷路や射的、輪投げなどの遊びを満喫しました。

節分草祭では、地域団体の出店や、自生地を巡る節分草ノルディックウォーキングのほか、総領中学校生徒による節分草ガイドが行なわれ、多くの人でにぎわいました。

NPO法人節分草保存会の矢吹正直理事長は「今後もさまざまな催しを企画し、地域と共に、節分草の魅力を発信していきたい」と話していました。



▲総領中学校の生徒が節分草ガイドを務めた